

昨年度の検討結果（まちづくり連絡協議会での検討結果）

(1) 木曽山崎団地地区のまちづくりの目標

昨年度は周辺の環境を含めた現況、住民アンケートから課題の抽出を行い、その結果から、まちづくりの目標及びまちづくりの方向性を提案した。

1) 木曽山崎団地地区のまちづくりの課題

木曽山崎団地地区・団地の現況や、住民の皆様へのアンケートから、まちづくりの課題（下記）を整理。

【団地地区の課題、求められる方向性】

①安心して暮らせる環境の充実

若い世代から高齢者まで、だれもが安心して住むことができる環境整備。

②楽しく交流できる環境の充実

団地内の人との和を育み、コミュニティを活性化させるため、多様な世代が交流・活動できる場。

③利便性の向上

生活の質の向上を目指して、交通や買い物が便利な暮らしやすいまちづくり。

④周辺から訪れたくなるまちの魅力の向上

団地のにぎわいのため、魅力ある施設を導入する等、団地外からも訪れたくなる魅力づくり。

⑤環境への配慮

団地が持つ豊かな緑を生かすなど、環境に配慮したまちづくり。

2) まちづくりの目標及び方向性

まちづくりの課題からまちづくりの目標及び方向性を検討。

【団地地区のまちづくりの目標】

新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり

まちづくりの目標を実現するため、5つのまちづくりの骨子、方向性を定めた。

①安心して暮らせるまちづくり

防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図る。

②楽しく交流できるまちづくり

多様な世代やライフスタイルの人たちが、気軽に集い、交流することができる場を作り、コミュニティを再生する。

③利便性の高いまちづくり

すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスや公共交通を充実させる。

④周辺から訪れたくなる魅力のあるまちづくり

地区外から訪れたくなる、住みたくなる、歩きたくなるような団地の魅力を作る。

⑤環境を考えたまちづくり

緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源対策へも配慮した団地を目指す。

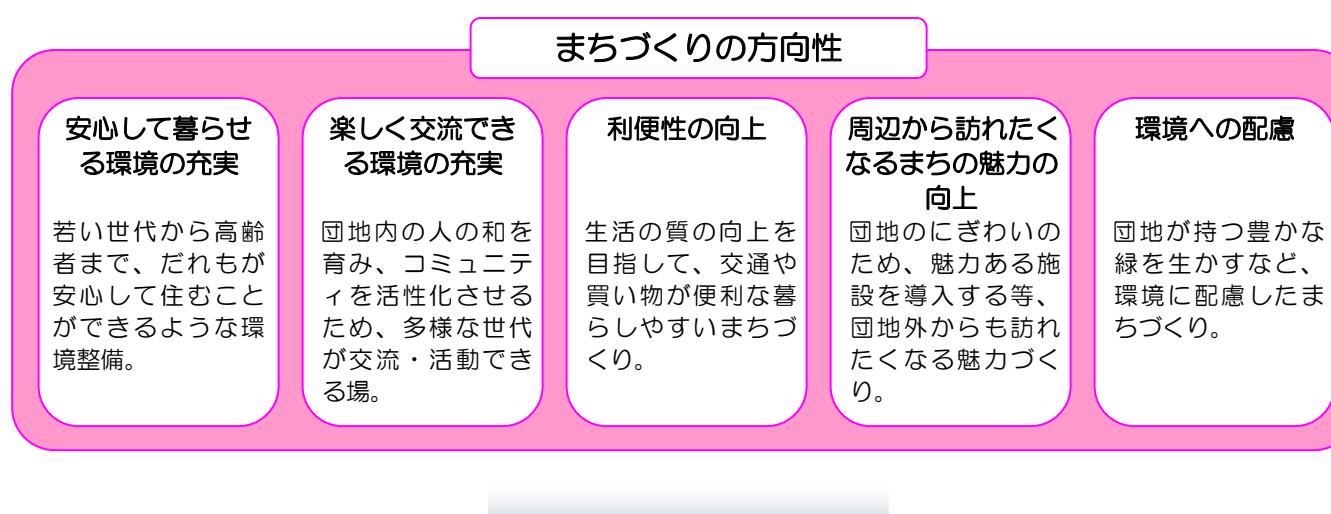
(2) 学校跡地の活用方法の提案

学校跡地は、木曽山崎団地地区の課題を解決し、まちづくりの目標を実現するために活用することが重要であり、昨年度の協議会では、木曽山崎団地地区のまちづくりの方向性をふまえて、各学校跡地がまちづくりの目標の実現に資するための活用方法を提案。

1) 基本的な考え方

学校跡地は、まとまった面積の土地であることから、複数の機能を導入する可能性がある。そのため、中心的な活用の方向性を示すものを「拠点」と称し、学校跡地の活用方法として、まちづくりの方向性から拠点を導き出した。

なお、まちづくりの方向性のうち、「利便性の高いまちづくり」は、公共交通の充実を掲げており、学校跡地の拠点には適さないと考えた。また、「環境を考えたまちづくり」については、拠点ではなく、この地区全体で取り組むべきと考え、拠点からは除外した。

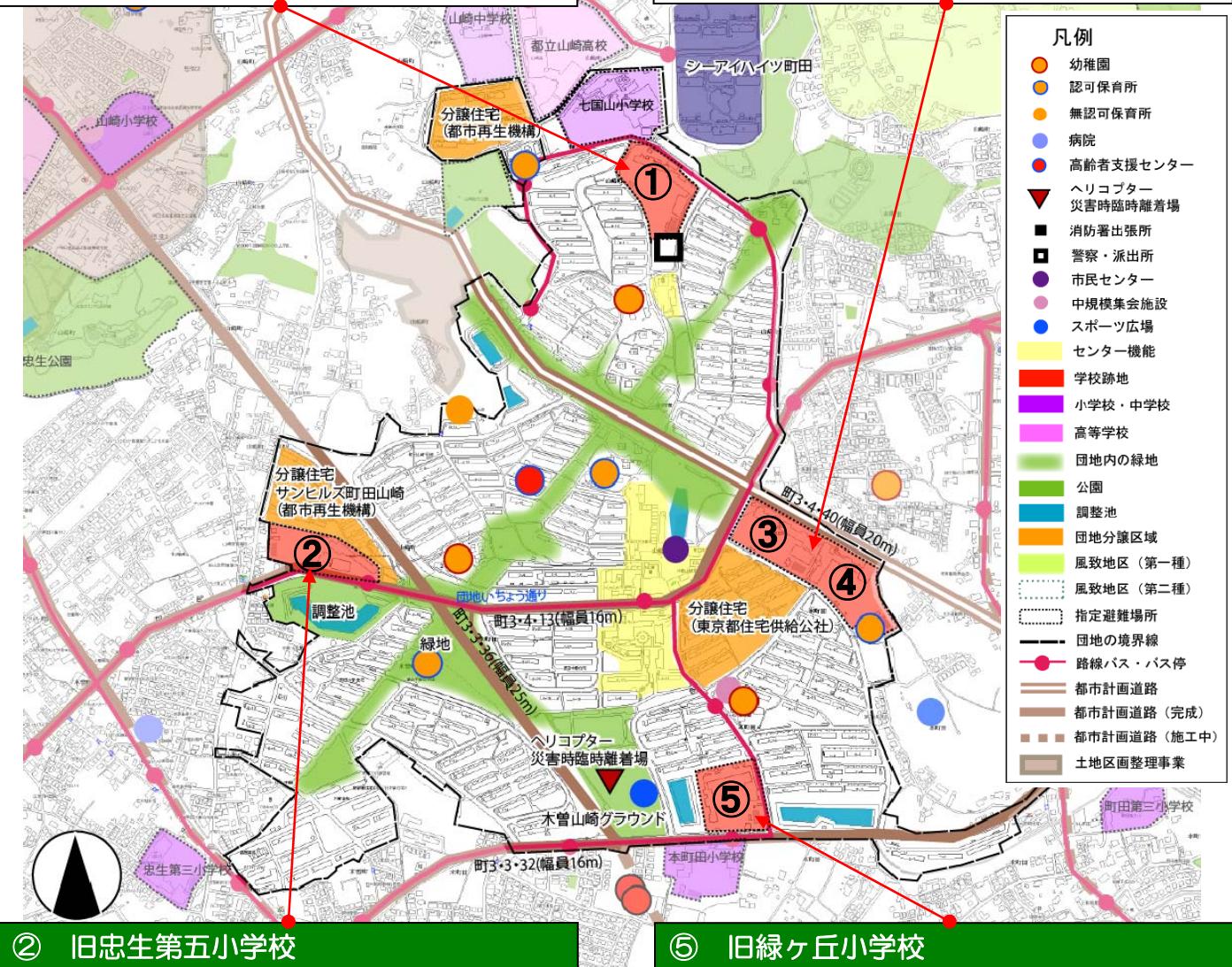


**① 旧忠生第六小学校
～健康増進関連拠点～**

健康増進関連拠点には、健康の増進につながるような緑豊かな環境が必要である。北東側が緑豊かな風致地区に指定されている旧忠生第六小学校跡地の立地特性は、健康増進関連拠点として適切な場所であると考えられる。

**③旧本町田西小学校、④旧本町田中学校
～文化関連拠点・教育関連拠点～**

日本町田西小学校と旧本町田中学校は、交通利便性の高い場所である上、2つの学校跡地は隣接しており、一体的な施設立地を検討できるなど活用の自由度が高いというメリットがある。2つの跡地を一体活用した場合には文化・教育関連拠点とすることが提案できる。



**② 旧忠生第五小学校
～子育て活動拠点～**

旧忠生第五小学校は、幅員の大きな道路に接していることや、バス停に近接していることから、交通の利便性が高く、また周辺に若年層が居住しており、利用ニーズが高いと思われるところから、子育て活動拠点として適切な場所であると考えられる。

**⑤ 旧緑ヶ丘小学校
～防災主要拠点～**

防災主要拠点には、緊急時の大型車両などへの対応や、広域にわたる活動のため、幅員が広く、広域的な道路に接している必要がある。旧緑ヶ丘小学校は、2つの都市計画道路に面している交通利便性の高い場所となっており、災害時の拠点として適切な場所であると考えられる。